

植物と人々の博物館メールマガジン

第 76 号 2021 年 6 月 3 日発行

アジサイが咲き始めましたので、近所で写した写真を添付し、お贈りします。

環境楽習会「環境学習原論」第一回（環境学習市民連合大学）を添付の要領で始めます。私たちの環境史を心の在り方から深く学び、考えてみたいと思います。未来への希望を探すために、一緒に話し合いたいです。

紫陽花 <http://www.milletimplic.net/weedlife/hotakisan.pdf>

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ一緒に、植物をめぐる生物文化多様性の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。くれぐれも、お大事にお過ごしください。

1. 植物と人々の博物館

1) **開館・作業予定日**：ヴァイラス対策のため**休館**しますが、御用のある方は御連絡下さい。6月下旬には雑穀見本園づくりのために行く予定です。

2) **雑穀の種子継ぎ**：小金井では5月7日に種子をまきました。プランタでも良く育っています。小菅では昨年、秋子さんの丹精で良い種子が十分採種できましたので、皆さまにも是非栽培していただきたく、本年5～6月に播く種子（アワ、キビ、モロコシ、ヒエ、ハトムギ、シコクビエ）を差し上げます。藤野の宮本茶園でも種子継しています。メールでご住所をお知らせください。お送りします。

3) **民族植物学ノオト**：第15号電子版は原稿募集中です。締め切りは2021年12月末、2022年3月発行予定です。編集子は「大学論」を準備しています。これまでのすべての記事pdfは植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に無料で差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

4) **電子書籍**：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。これら出版物は国立国会図書館のeデポに登録され、公開されます。

発行及び近日発行予定：一部公開中、上記ウェブサイトで読めます。

発行予定：『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）

*『第四紀植物』第5章イネ科数属の生態的一年生化を公開しました。「第6章キビの栽培化過程と伝播」についてまとめています。年内に全章を書き終えて、公開する予定です。

一部公開中：『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』、『Essentials of Ethnobotany』の一部公開はまだ先になります。これらは書き終えたら、電子出版にします。

木俣美樹男 2021、クリンネス連載随筆継続、7月号、9月号、11月号。

5) ジュズダマ属栽培試験のデータベースを公開しました。キビは改定中です。

6) 寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」ほか。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation の提案

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで1円玉からする募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために始めたいです。

2. 雑穀街道普及会：

自給農耕ゼミなどをZOOMで行い、栽培、加工、調理、販売など技術的な事も経験交流し、学びを拡げるために、ゼミは一般公開したいです。

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。少しずつ、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統も継承されません。全国各地の伝統的な雑穀栽培継承者が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習理論・実践「環境学習原論」を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作りました。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が存在するだけです。学ぶ意味や大学について改めて考え直したいです。このサイバー大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

第1回環境楽習会「環境学習原論」 一般公開無料

お知らせ詳細添付 <http://www.milletimplic.net/university/Pellan.pdf>

日時：6月27日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびZOOM

話題：心の構造 自然の三相、心の構造、アートとしての街づくり。座談会。

4. 自然文化誌研究会

冒険学校スタッフ研修会は参加者を限定して、COVID-19に対応するキャンプ手法を試行するために、小菅村で5月3～5日に実施しました。

主な活動予定：詳細は下記ウェブサイトにあります。

8月5～11日 こすげ冒険学校、小菅村

9月25～26日 INCHまつり、小菅村

5. 他団体

小金井環境市民会議：小金井市環境条例に基づく市民団体CSOの総会が、5月30日に行われました。

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、藤盛礼恵（千葉、運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）ほか

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

環境学習市民連合大学 <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

~~~~~

木俣美樹男 Mikio KIMATA kibi20kijin@yahoo.co.jp

植物と人々の博物館／日本村塾、雑穀街道普及会

Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum

公式HP：<http://www.ppmusee.org>

個人HP：<http://www.milletimplic.net>